

ワクチン接種から見る 地域医療

市長が行く vol.1

令和3年(2021年)8月15日



高橋昌和市長

秦野伊勢原医師会救急担当理事・
公衆衛生委員会委員 内藤剛彦医師

市長が、医療・産業・教育など多岐にわたるテーマに沿った現場を訪問し、対談方式で意見を聴き、市政への反映や本市の魅力向上を目指す企画です。

ワクチン接種が急ピッチで進められていますが、収束にはまだまだ時間がかかると思われる新型コロナウイルス。

先月28日には、神奈川県でも一日の新規感染者が初めて千人を超え、8月末までを期限とした三度目の「緊急事態宣言」が、神奈川県に発令されました。本市においても、若年層を中心に感染者が増えています。感染拡大防止の切り札として期待される本市のワクチン接種を支える内藤医師に、ワクチン接種について高橋市長が話を聴きました。

ワクチン接種のはじまり

高橋 新型感染症対策として、

希望者全員へのワクチン接種という前例のない取り組みを行うことになりましたが、どのように思われましたか。

内藤 大規模災害の中の大規模災害なんだと思います。振り返ると、昨年の1月に横浜港を出港したクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」号から感染が始まり、日本国内でも感染者が増え始めました。国がワクチン接種計画を示したのが昨年12月。各自自治体でワクチン接種をどうするか。ここから私たちの取り組みが始まりました。

高橋 ワクチン接種にあたっては、市と医師会の連絡調整、取りまとめ役を、内藤先生自ら引き受けてくださいました。大変ご苦労が多かったと思いますが、医師会の先生方の全面的なご協力を得て、本市でのワクチン接種が非常にスムーズに実現しましたことに、心から感謝しています。

内藤 元々、救命救急センターや大規模災害のシミュレーション



ンなどに携わっていたので、経験が生かせると思っただんです。

高橋 集団接種を実施することは、先生方にとって、通常の診療・検診に対する新たな負担となり、不安もあつたのではないですか。

内藤 今回の災害は、日本全国で起きていますから、ほかの地域から人員を派遣してもらい、お願いすることはできません。自分たちの地域は自分たちでやるしかありません。市民の公衆衛生は医師会としても、最も重要な活動です。ここで頑張らなければ、誰がやるんだこの思いで、会長はじめ、理事、会員の協

力を得てこれまで取り組んできました。

高橋 5月23日の集団接種を皮切りに、本市のワクチン接種を開始しました。取り組み当初、どのように感じられましたか。

内藤 市と医師会だけでは到底できないと思いました。薬剤師会、民生委員・児童委員、社会福祉協議会といった各団体が一丸となって、「オール秦野」で取り組まなければできないと思えました。実際に、薬剤師会へのお願だけでなく、市内の人員や団体など、できるだけ多くの方を巻き込んで、地域資源を最大限に活用し、分担して、できる限りのことをやろうという思いで市の担当者や連日協議をしました。

大切なのはワクチンを正しく理解すること

高橋 今回使用するワクチンはどのようなものですか。

内藤 mRNAワクチンと呼ばれる、これまでなかった新しいワクチンです。およそマイナス70度で保管しなくてはいけない、激しく揺らしてはいけないなどといったように、取り扱いが大変注意が必要なものです。ワクチン接種はあくまで任意であり、個人の意思を尊重して、強制ではありません。しかし、今のところ、新型感染症の切り札となるのはワクチンしかないんです。市民の半分以上に抵抗力をつけていただくことで、感染の広がりを防ぐことができると期待されています。

高橋 10月末を目標に、接種を希望する方全員にワクチンが接種できるよう計画的に進めていきます。医療従事者から見て、現状や今後について、どのようにお考えですか。

内藤 私自身も、実際に集団接種に従事する中で、市民の方の声を聞いています。「2回目の接種が終わり、安心」といった声

を多く聞くことは、私たち従事者にとって、何よりの励みです。子どもへの接種には、子どもに合わせた新たな対策を考える必要があるよねと、関係者とも既に話しています。感染を防ぐ唯一の手段である、ワクチン接種を積極的に推進していきたいと思っています。国からのワクチンの供給量が変わるなど、急な対応が迫られることもありすが、安全とスピードを両立して安全を第一に取り組んでいきたいと考えています。

高橋 ワクチンの副反応や効果について、どうお考えですか。

内藤 一番大事なのは、どんな薬にも効果と副作用があるということです。日頃、患者さんには、「効果のほうが大変、だから薬を使つてほしい」と話しています。ワクチンは、



2回接種後、2週間から1か月

位で免疫、抵抗力がつくと書かれていますが。若い方は、免疫の反応が強く現れる傾向があるため、痛み、熱、倦怠感などの副反応が強く出るといふ報告があります。また、体質的に接種が困難な方もいます。

高橋 担当の医師によく相談する必要がありますね。ところでマスクはいつ頃外せるようになりますか。

内藤 今は誰も分かりません。大人数での飲食のような日常生活もまだ当分できないと思います。

高橋 若い人の中には、SNSなどの影響で、接種を控える人もいると聞きますが。

内藤 SNSは災害時など、便利で重要なツールです。しかし、その情報が全て正しいとは限りません。何を目的に掲載されたのか、出典はどこか、正確な情報かどうか、自分でしっかり調べて、最終的には自分で判断していただきたい。そういう意味では、正しい情報を発信するこ

とも大切だと思います。

オール秦野で

高橋 市としても、若い人にも積極的に接種してもらえようように、正しい情報を発信していきたいと思います。これまでの日常生活を取り戻すために、行政と医療の連携、協力で、さらに求められることは、何でしょうか。

内藤 秦野の全ての団体や個人など、オール秦野で取り組むことが大切です。どっちがどっちではなくて、一緒になってやらなければいけない。関係者にも「みんなで取り組む」という意識付けを、初めからしてきました。医療の専門的な内容は行政には分かりませんから、医療従事者がカバーしなくてはなりません。秦野市民全員がチームで取り組んでいきたいと思っています。

高橋 前例のない難局を乗り越えるため、みんなの英知を結集し、オール秦野で取り組んでい

きたいと思っています。

引き続き、感染症対策の徹底を

高橋 変異株の出現により感染者の急増が懸念される中、市民の皆さんに伝えたいことはありますか。

内藤 感染者が増え、対応するのは医療従事者です。感染者が増えたからと言って、何か特別なことをする必要はありません。今一度、一人一人が基本的な感染症対策をしっかりと守っていただくことが何より重要です。一日も早い感染症の収束に向けて、油断せず、引き続き感染症

対策の徹底をお願いします。

高橋 市に対する要望はありますか。

内藤 頼むとか頼まれるというのではなく、医師会も頑張ります。市も、薬剤師会も、オール秦野で頑張りましょう。

高橋 ご協力をお願いいたします。秦野伊勢原医師会の関野会長をはじめ、先生方には、使命感を持って、献身的にご協力をいただいていることに、心から感謝申し上げます。

内藤 市民の皆さんの健康は、医師会の最重要課題です。これからも一緒に取り組んでいきたいと思います。



高橋 市民の安全・安心を守り、健康に日常生活を送れるようにするため、市としても、医師会や各団体の皆さんとともに力を合わせて、より一層感染症対策に取り組んでいきたいと思っています。

新型コロナウイルス関連情報

一日も早く緊急事態を収束できるよう、徹底した感染症対策をお願いします。

引き続き一人一人ができることを

「3密回避」、「小まめな手洗・手指消毒」や「身体的距離の確保」など、基本的な感染症対策の徹底をお願いします。



県域をまたぐ移動の自粛を

夏休みやお盆休みなど、人の流れが活発になる時期ですが、旅行や帰省など、県域をまたぐ移動は自粛してください。

市からの最新情報は

市ホームページ

感染症特設ページ

(感染症への対応全般)



市 LINE 公式アカウント

右の二次元コードから「友だち」に追加



ワクチン情報ページ

(接種に関する案内)



問市新型コロナウイルス感染症コールセンター **TEL**(82)9615、市新型コロナワクチンコールセンター **TEL**0570(666)159

